平成２９年度幼児教育調査研究

# 幼稚園教育課程編成の手引

平成３０年３月

栃木県教育委員会

# はじめに

近年、情報化やグローバル化といった急速な社会的変化の中で、予測が困難な時代を生き抜く子どもたちには、主体的に課題に向き合い、他者と協働して解決していく力や様々な情報から新たな価値を生み出していく力などが求められています。

こうした状況を踏まえ、平成２９年３月に幼稚園教育要領が改訂されました。その中で、幼稚園には、幼児の自発的な活動としての遊びを通した総合的な指導の下、幼児期の教育における見方・考え方を生かし、「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの資質・能力を一体的に育み、幼稚園修了時に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が現れるような教育活動の展開が求められています。

このような中、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」という理念を学校と社会とが共有し、各幼稚園において、幼児期にふさわしい生活をどのように展開し、どのような資質・能力を育むようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、「社会に開かれた教育課程」の実現が重要となります。

栃木県教育委員会では、平成２８年２月に策定した「栃木県教育振興基本計画 2020－教育ビジョンとちぎ－」において、１５の基本施策の一つに「幼児教育の充実」を掲げ、栃木県が目指す幼児教育の方向性や主な取組を示しています。幼稚園、家庭、地域が一体となり、子どもと向き合う全ての方々が、目指すべき教育の方向性を共有することはとても大切なことと考えます。

これらの趣旨を十分に踏まえ、各幼稚園が教育課程の編成や改善をする際の参考資料として「幼稚園教育課程編成の手引」を作成しました。各幼稚園において、本書を参考にしながら、教育内容の質の向上に向け、カリキュラム・マネジメントを充実させ、社会に開かれた教育課程の編成に役立てていただければ幸いです。

平成３０年３月

栃木県教育委員会教育長
宇田　貞夫

# 目　　次

第１章　教育課程の役割
１　義務教育及びその後の教育の基礎を培うこと　・・・・・・・・・・・1
２　適切な教育課程の編成　・・・・・・・・・・・1
３　カリキュラム・マネジメントの実施　・・・・・・・・・・・1

第２章　教育課程の編成の基本的な考え方
１　幼稚園教育の基本を踏まえること　・・・・・・・・・・・2
２　幼稚園教育要領の改訂の要点を踏まえること　・・・・・・・・・・・2
（１）「総則」の改訂の要点
（２）「ねらい及び内容」の改訂の要点
（３）「教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項」の改訂の要点

第３章　教育課程の編成の方法
１　各幼稚園の教育目標と教育課程の編成　・・・・・・・・・・・5
２　教育課程の編成上の基本的事項　・・・・・・・・・・・5
（１）ねらいと内容を組織すること
（２）幼児期の発達の特性を踏まえること
（３）入園から修了に至るまでの長期的な視野をもつこと
（４）教育課程の編成の実際
（５）教育課程の評価・改善
（６）教育課程に係る教育週数
（７）教育課程に係る教育時間
３　教育課程の編成上の留意事項　・・・・・・・・・・・6
（１）入園から修了までの生活
（２）入園当初の配慮
（３）安全上の配慮
４　小学校教育との接続に当たっての留意事項　・・・・・・・・・・・7
（１）小学校以降の生活や学習の基盤の育成
（２）小学校教育との接続
５　全体的な計画の作成　・・・・・・・・・・・7

重要な用語の解説　・・・・・・・・・・・8

## 実践事例

１　主体的・対話的で深い学び　～教材研究を中心に～
（宇都宮大学教育学部附属幼稚園）　・・・・１０
２　「人との関わり」の広がりを目指して　～学校評価に基づいて～
（那須烏山市立つくし幼稚園）　・・・・１２
３　自ら考えて行動する子を目指して　～「思考力、判断力、表現力等の基礎」を視点に～
（足利短期大学附属幼稚園）　・・・・１４
４　満３歳児の生活　～「養護的な関わり」を意識して～
（第二ひかり幼稚園）　・・・・１６
５　地域との連携　～全体的な計画を意識して～
（栃木市認定西方なかよしこども園）　・・・・１８
６　小学校教育との接続　～「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識して～
（認定こども園あかみ幼稚園）　・・・・２０

# 第１章　教育課程の役割

教育課程とは、各幼稚園において、教育基本法及び学校教育法その他の法令並びに幼稚園教育要領の示すところに従い、教育の在り方を具体化し、教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てたものである。幼稚園では、幼稚園教育の基本に基づき、幼稚園生活を展開し、学校教育法第２３条の幼稚園教育の目標を達成するように努めなければならない。幼稚園教育の目標に含まれる意図を十分に理解して、様々な体験を通して生きる力の基礎を育めるように、各幼稚園の創意工夫を生かし、幼児の心身の発達と幼稚園及び地域の実態に即応した適切な教育課程を編成するものとする。

## １　義務教育及びその後の教育の基礎を培うこと

学校教育法第２２条で示されている「幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培う」とは、幼稚園で幼児期の特性を踏まえた教育をしっかり行うことが、その後の教育につながっていくことを意味している。幼稚園では、５領域の「ねらい」が遊びを通して総合的に達成されるよう教育を行うことにより、生きる力の基礎を育成している。このことが教育期間中に確実に実現するよう、幼児の発達や実態を捉え、教育期間を見通した組織的かつ計画的な教育課程を編成する必要がある。

## ２　適切な教育課程の編成

幼稚園は、国立、公立、私立を問わず、公教育の立場から、各法令や幼稚園教育要領に従って、教育課程を編成しなければならない。その際、幼稚園の長たる園長は、幼稚園全体の責任者として指導性を発揮し、全教職員の協力の下、以下の点を踏まえつつ編成しなければならない。

**○　幼児の心身の発達**
**幼児の調和のとれた発達を図るという観点から、幼児の発達の見通しをもつ**

**○　幼稚園の実態**
**幼稚園の規模、教職員の状況、施設設備の状況などの人的・物的条件に応じて効果的な教育活動が実施できるようにする**

**○　地域の実態**
**幼稚園を取り巻く地域社会の実態を十分に考慮する**

**○　創意工夫を生かすこと**
**地域や幼稚園の実態及び幼児の心身の発達を十分に踏まえ、創意工夫を生かし特色あるものとする**

## ３　カリキュラム・マネジメントの実施

各幼稚園においては、園長のリーダーシップの下、全体的な計画に留意しながら「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ教育課程を編成すること、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともに、その改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各幼稚園の教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の実施に努めるものとする。カリキュラム・マネジメントの適切な実施により、幼稚園の教育活動が充実するとともに、その質を高めることができる。

# 第２章　教育課程の編成の基本的な考え方

教育課程は、各幼稚園の実態に応じて創意工夫を生かして編成されるべきものであるが、各法令や幼稚園教育要領の示す幼稚園教育の基本や改訂の趣旨等を踏まえなければならない。

## １　幼稚園教育の基本を踏まえること

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園教育は、学校教育法に規定する目的及び目標を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。教育課程を編成する際には、次に示すことを重視した教育が展開できるようにしなければならない。

- ○　幼児期にふさわしい生活が展開されるようにする
- ○　遊びを通しての総合的な指導をする
- ○　一人一人の発達の特性に応じた指導をする

## ２　幼稚園教育要領の改訂の要点を踏まえること

幼稚園教育要領は、理念の実現に向けて必要となる教育課程の基準を大綱的に定めたものなので、各幼稚園では、幼稚園教育要領の内容を理解し、その趣旨を踏まえて教育課程を編成しなければならない。

各幼稚園での教育課程の編成・改善に向けては、特に、次に示した改訂の要点を意識することが重要である。

### （１）「総則」の改訂の要点

#### ①　幼稚園教育の基本

幼稚園教育は、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とすることは変わらないが、次のことが新たに示された。

- ○　幼児期の教育における見方・考え方
- ○　計画的な環境の構成に関連した教材の工夫

#### ②　幼稚園教育において育みたい資質・能力の明確化

各学校段階及び全ての教科等に共通する、育成を目指す三つの資質・能力が明確化された。幼児教育段階では、以下の資質・能力を、遊びや生活の中で環境を通して総合的な指導を行い、一体的に育んでいくことが重要である。

- ○　知識及び技能の基礎
  豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする
- ○　思考力、判断力、表現力等の基礎
  気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする
- ○　学びに向かう力、人間性等
  心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする

詳細はＰ８

③　「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の明確化

幼稚園教育と小学校教育との接続の一層の強化が図られるよう、幼稚園教育の基本を踏まえ幼稚園修了時までに育ってほしい具体的な姿が三つの資質・能力を踏まえ明確化された。教育課程を編成する際は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置いておく必要がある。また、３歳児、４歳児それぞれの時期にふさわしい指導の積み重ねが、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」につながっていくことに留意する。

- ○　健康な心と体
- ○　自立心
- ○　協同性
- ○　道徳性・規範意識の芽生え
- ○　社会生活との関わり
- ○　思考力の芽生え
- ○　自然との関わり・生命尊重
- ○　数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- ○　言葉による伝え合い
- ○　豊かな感性と表現

④　教育課程の役割と編成等

教育課程は、幼稚園における教育期間の全体を見通したものであり、幼稚園の教育目標に向かい入園から修了までの期間において、どのような筋道をたどっていくかを明らかにした計画である。教育課程を編成するに当たって、次のことが新たに示されている。

- ○　カリキュラム・マネジメントの充実
- ○　教育目標の明確化と基本的な方針の家庭や地域との共有
- ○　満３歳児への配慮
- ○　安全への配慮
- ○　幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続
- ○　全体的な計画の作成

⑤　指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価

指導計画は、教育課程に基づいて、更に具体的なねらいや内容、環境の構成、教師の援助など、指導の内容や方法を明らかにしたものである。指導計画は一つの仮説であり、実際に展開される生活に応じて常に改善するという実践の積み重ねの中で、教育課程も改善していく必要がある。指導計画の作成と評価に当たっては、次のことが新たに示されている。

- ○　主体的・対話的で深い学びの実現
- ○　言語活動の充実
- ○　遊びや生活の見通しや振返りの工夫
- ○　情報機器の適切な活用
- ○　幼児理解に基づいた評価
- ○　指導の振返りと改善

⑥　特別な配慮を必要とする幼児への指導

特別な配慮を必要とする幼児への指導に当たっては、次のことが新たに示されている。

- ○　障害のある幼児などへの指導における個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成・活用
- ○　海外から帰国した幼児等への実態に応じた指導の工夫

⑦　幼稚園運営上の留意事項

幼稚園運営の際に留意しなければならないこととして、次のことが新たに示されている。

- ○　カリキュラム・マネジメントと関連付けた学校評価の実施
- ○　学校等間の連携・交流

## （２）「ねらい及び内容」の改訂の要点

５領域の「ねらい」は、幼稚園教育において育みたい資質・能力を幼児の生活する姿から捉えたものであり、「内容」は、ねらいを達成するために指導する事項である。また、「内容の取扱い」は幼児の発達を踏まえた指導を行うに当たって留意すべき事項である。

５領域のねらい及び内容、内容の取扱いについて、次のことが新たに示されている。

**◎ねらい　◇内容　☆内容の取扱い**

① 領域「健康」

◎　見通しをもって行動すること
◇　食べ物への興味や関心をもつこと
☆　多様な動きを経験する中で、体の動きを調整するようにすること
☆　食の大切さに気付くこと
☆　遊びを通して安全についての構えを身に付けること

② 領域「人間関係」

◎　身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつこと
☆　諦めずにやり遂げることの達成感や、前向きな見通しをもって自分の力で行う事の充実感を味わうことができるようにすること
☆　自分のよさや特徴に気付くようにすること

③ 領域「環境」

◇　日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむこと
◇　自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶこと
☆　自分の考えをよりよいものにしようとする気持ちが育つようにすること
☆　文化や伝統に親しむ際には、正月や節句など我が国の伝統的な行事、国歌、唱歌、わらべうたや我が国の伝統的な遊びに親しんだり、異なる文化に触れる活動に親しんだりすることを通じて、社会とのつながりの意識や国際理解の意識の芽生えなどが養われるようにすること

④ 領域「言葉」

◎　言葉に対する感覚を豊かにすること
☆　幼児が生活の中で、言葉の響きやリズム、新しい言葉や表現などに触れ、これらを使う楽しさを味わえるようにすること。その際、絵本や物語に親しんだり、言葉遊びなどをしたりすることを通して、言葉が豊かになるようにすること

⑤ 領域「表現」

☆　豊かな感性を養う際に、風の音や雨の音、身近にある草や花の形や色など自然の中にある音、形、色などに気付くようにすること
☆　様々な素材や表現の仕方に親しむこと

## （３）「教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項」の改訂の要点

幼稚園における教育課程が「社会に開かれた教育課程」としての役割を更に果たしていくために、以下のことが改善された。

○　教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動の計画を作成する際、地域の人々と連携するなど、地域の様々な資源を活用しつつ、多様な体験ができるようにすること
○　地域における幼児期の教育のセンターとしての役割を果たす際に、心理や保健の専門家、地域の子育て経験者等と連携・協働しながら取り組むこと

# 第３章　教育課程の編成の方法

教育課程の編成の方法は様々だが、以下の項目に従って、教育内容や方法の確認を行い、教育課程を編成・改善していくとよい。

**改訂に伴い、特に注目するところ**

## １　各幼稚園の教育目標と教育課程の編成

各幼稚園は、幼稚園教育において育みたい資質・能力を踏まえ、教育目標を明確にするとともに、教育期間の全体にわたって、目標に向かってどのような道筋をたどって教育を進めていくかを明らかにした教育課程を編成する。また、教育課程の編成の基本的な方針について、家庭や地域とも共有されるよう努める。

**【編成・改善の視点】**
- □　幼稚園教育において育みたい資質・能力を踏まえた教育目標が設定されているか。
- □　教育目標に向かって、どのような道筋で教育を進めていくかが明らかになっているか。
- □　教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域と共有されるよう努めているか。

## ２　教育課程の編成上の基本的事項

（１）ねらいと内容を組織すること

幼稚園生活の全体を通して幼稚園教育要領に示すねらいが総合的に達成されるよう、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連を考慮しながら、各時期にふさわしい生活に応じて具体的なねらいと内容を組織する。

**【編成・改善の視点】**
- □　幼児の生活経験や発達に応じて、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連を考慮しながら、５領域のねらいが総合的に達成されているか。

（２）幼児期の発達の特性を踏まえること

幼児期の発達の特性を十分に踏まえて、入園から修了までの見通しをもち、きめ細かな対応が図れるようにする。

**【編成・改善の視点】**
- □　自我が芽生え、他者の存在を意識し、自己を抑制しようとする気持ちが生まれる幼児期の発達の特性を踏まえているか。

（３）入園から修了に至るまでの長期的な視野をもつこと

各幼稚園の実情に応じて、長期的な視野をもち、発達の時期を捉えなければならない。

**【編成・改善の視点】**
- □　入園から修了までの教育期間において、幼児の発達の過程を捉えているか。
- □　発達の各時期のねらいや内容が、相互に関連しているか。

（４）教育課程の編成の実際

各幼稚園の実態に即した教育課程となるよう、全教職員が、教育課程に示されていることについて十分に理解し、実践することが大切である。

**【編成・改善の視点】**
- □　幼稚園に累積されている資料などから幼児の発達の過程や実情を的確に把握しているか。
- □　幼稚園や地域の実態を把握して、特色を生かしているか。

（５）教育課程の評価・改善

教育課程の実施状況を評価して改善する際には、直ちに修正できるものもあれば、長期の見通しの下に改善の努力をしなければならないものもある。また、部分修正にとどまるものもあれば、全体修正を必要とするものもある。それらのことを見定めて教育課程の改善を図り、一層適切な教育課程を編成するように努めなければならない。

**【編成・改善の視点】**
- □　評価・改善の見通しをもっているか。

（６）教育課程に係る教育週数

幼稚園の各学年の教育課程に係る教育週数は、特別の事情のある場合を除き、３９週を下ってはならない。

**【編成・改善の視点】**
- □　教育週数は適切か。

（７）教育課程に係る教育時間

幼稚園の１日の教育課程に係る教育時間は、４時間を標準とする。ただし、幼児の年齢や教育経験などの発達の違いや季節などに適切に配慮する。

**【編成・改善の視点】**
- □　教育時間は適切か。

## ３　教育課程の編成上の留意事項

（１）入園から修了までの生活

幼児の生活は、入園当初の一人一人の遊びや教師との触れ合いを通して幼稚園生活に親しみ、安定していく時期から、他の幼児との関わりの中で幼児の主体的な活動が深まり、幼児が互いに必要な存在であることを認識するようになり、やがて幼児同士や学級全体で目的をもって協同して幼稚園生活を展開し、深めていく時期などに至るまでの過程を様々に経ながら広げられていくものであることを考慮する。

**【編成・改善の視点】**
- □　幼児の実態や発達に応じて適切に時期を捉えているか。
- □　それぞれの時期にふさわしい生活が展開されているか。

（２）入園当初の配慮

入園当初は、家庭との連携を緊密にし、生活のリズムや安全面に十分配慮する。また、満３歳児については、幼児が安心して幼稚園生活を送れるように配慮する。

**【編成・改善の視点】**
- □　入園当初、一人一人の生活の仕方やリズムに配慮して、１日の生活の流れを工夫しているか。
- □　入園当初の安全について十分に配慮されているか。
- □　満３歳児については、一人一人の家庭や地域での生活の経験や集団生活の経験などが異なることを考慮しているか。
- □　満３歳児の入園に関して、幼稚園の実態に即した配慮がなされているか。

（3）安全上の配慮

教職員による協力体制の下、幼児の主体的な活動を大切にしつつ、園庭や園舎などの環境の配慮や指導の工夫を行う。

**【編成・改善の視点】**

- □　安全面に配慮しながら、幼児の主体的な活動が保障されているか。
- □　次第に幼児が自ら安全な行動をとることができるように工夫されているか。
- □　発達に応じて、園庭や園舎などの環境の配慮や指導の工夫がされているか。

## 4　小学校教育との接続に当たっての留意事項

（1）小学校以降の生活や学習の基盤の育成

幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにする。その際、小学校教育の先取りとならないように留意する。

**【編成・改善の視点】**

- □　発達に応じて、創造的な思考や主体的な生活態度の基礎が培われているか。
- □　幼稚園修了の時期に、皆と一緒に教師の話を聞いたり、行動したり、きまりを守ったりすることができるように指導が重ねられているか。
- □　協同して遊ぶ経験が積み重ねられているか。

（2）小学校教育との接続

幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携し、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続を図るよう努める。

**【編成・改善の視点】**

- □　「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて、幼児期から児童期への発達や学びの連続性が意識されているか。
- □　小学校との教育内容や方法の違いや共通点を理解した上で、円滑な接続を図るために接続期の教育内容や方法が工夫されているか。

## 5　全体的な計画の作成

詳細はＰ８

各幼稚園においては、幼児の生活を見通し、教育課程を中心に、教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動の計画、学校保健計画、学校安全計画などと関連させ、一体的に教育活動が展開されるよう全体的な計画を作成する。

**【編成・改善の視点】**

- □　各々の計画が作成されているか。
- □　各々の計画との関連が図られているか。

# 重要な用語の解説

P 3

## 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とは、５領域のねらい及び内容に基づいて幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、幼稚園教育において育みたい資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿であり、特に５歳児後半に見られるようになる姿である。この姿を念頭に置いて、一人一人に応じた指導を行う際に、以下の点を考慮する必要がある。

- ○　到達すべき目標ではないこと
- ○　個別に取り出して指導されるものではないこと
- ○　全ての幼児に同じように見られるものではないこと
- ○　３歳児、４歳児の時期から、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくこと

小学校の教師と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続を図ることが大切である。

また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼稚園教育を通した幼児の成長を幼稚園教育関係者以外に、分かりやすく伝えることにも資するものであり、各幼稚園での工夫が期待される。

P 7

## 全体的な計画

全体的な計画とは、教育課程を中心にして、教育課程に基づく指導計画、教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動の計画、保健管理に必要な学校保健計画、安全管理に必要な学校安全計画等を作成するとともに、それらの計画に関連をもたせながら、一体的に教育活動が展開されることを目的とした計画である。教育課程を中心にして全体的な計画を作成することを通して、各計画の位置付けや範囲、各計画間の有機的なつながりを明確化することができ、一体的な幼稚園運営につながる。

全体的な計画の作成に当たっては、園長のリーダーシップの下で、園全体の教職員が、各幼稚園の教育課程の基本的な理念や目指す幼児像、幼稚園修了までに育てたいこと等について十分に話し合い、共有していく必要がある。実際には、必要な計画をそれぞれの目的で作成し、教育課程を中心に据えながら、それぞれの計画との関連などの観点から調整していくことになる。最終的には、教育活動の全体図を描きながら、それぞれの計画を完成させていくことで、一貫性のある安定した幼稚園生活をつくり出すことにつながる。

# 実践事例

※　幼保連携型認定こども園においても、教育課程はもとより、全体的な計画の作成の参考資料となるよう、こども園の事例も掲載しました。

# 主体的・対話的で深い学び
## ～教材研究を中心に～

宇都宮大学教育学部附属幼稚園

### 1　教育課程の編成・改善の方向性

幼児を取り巻く環境が変化し、本園においても、以前と比べると幼児の実態も変化しているのが現状である。人との関わり方、体の動き、遊びの経験など、幼児の姿の変化を感じている。

前回の改訂の折には、「暮らしづくり」を軸に幼児の人・もの・文化との関わり方を視点として、教育課程の改善を試みた。また、今回の改訂で明確化された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に示されている協同性、道徳性・規範意識の芽生えなどについては、これまでに見直してきている。

今回の幼稚園教育要領の改訂においては、幼児期の教育における見方・考え方が示され、幼児期に育みたい資質・能力も明確にされた。幼児期から児童期以降にかけて、「主体的・対話的で深い学び」の大切さも謳われている。そこで、今一度、そのことを視点に教育課程の改善に当たることとした。本園においては、これまで、発達の時期にふさわしい幼児の育ちを支える教材の在り方に力を入れてきた。今回の改善においては、「主体的・対話的で深い学び」の視点で「教材研究」を中心に、更に見直しを図りたい。

### 2　教育課程の編成・改善の手順

| 日　付 | 内　容・方　法 |
|---|---|
| H29.4 | （1）園内研修の事例検討会を通して、幼児の理解を深めるとともに、改善の視点を探る。 |
| H29.7 | （2）園内研修で幼稚園教育要領を読み、改訂のポイント及び変更点について全教職員で共通理解を図る。 |
| H29.8 | （3）園外の研修に積極的に参加し、得た情報を園内研修で伝達し合い、今、幼児教育に求められている内容の共通理解を図る。 |
| H29.9～H30.2 | （4）全クラスとも「主体的・対話的で深い学び」をテーマに研究保育を行い、幼児の学びを視点に教材研究や環境の在り方について検討を重ねる。保育研究においては、幼児理解を深め、共通理解を図るとともに、発達の時期にふさわしい教材の在り方について考察を深める。 |
| H29.10 | （5）改善の視点から、更に事例を収集し、園内研修で検討し、その時期の幼児の発達と経験にふさわしい教材を探り、教育課程に反映させる。 |
| H29.1～12 | （6）保護者アンケートを実施し、園に対する要望、幼稚園の教育に貢献したことやよかったこと、これからできそうなことなど保護者の思いを把握する（園評価と兼ねる）。 |
| H29.11 | （7）集めた事例や日々の保育の記録等に基づき、学年ごとに幼児の発達を見通し、ねらいと内容について再検討する。 |
| H30.1 | （8）検討したねらいと内容について、園内研修で、更に検討する。 |
| H30.2～H30.3 | （9）学年ごとに見直した教育課程を他の計画等と照らし合わせ、発達を見通しながら、全体で調整する。 |

## 3　教育課程の編成・改善の実際

＜2・3年保育4歳児＞　※Ⅴ期抜粋

| 発達の姿 | Ⅲ期〈進級当初の不安定な時期〉 | Ⅳ期〈環境の探索を楽しむ時期〉 | Ⅴ期〈友達とのつながりを求めて活動する時期 | Ⅵ期〈友達と一緒にいろいろな経験を楽しむ時期〉 |
|---|---|---|---|---|
| | 不安を抱いている幼児や期待いっぱいの幼児など様々である。 | 遊具・友達のおもしろそうな遊びに興味をもち自分なりに働きかけ遊びだす。 | 友達を求めて活動し，そのつながりもできてくる。いろいろな遊びを経験することを楽しむ。 | 友達とのつながりの中で，様々な思いを味わいながらいろいろな遊びの楽しさを経験している。 |
| ねらい | ・身近な環境に対して驚きや親しみを感じてその中にひたりきって遊ぶ。<br>・身近な環境にその子なりに働きかけながら遊びを楽しむ。<br>・先生や友達に親しみをもち，いろいろなものに関わることを楽しむ。<br>・進級・新入したことへの戸惑いや葛藤を乗り越えて安心して過ごす。<br>・幼稚園生活のリズムが分かる。 | **・興味や関心をもった遊びの中でその子なりのイメージをわかして遊ぶ。**<br>**・いろいろな遊びに触れ，遊び方を知っていく。**<br>**・いろいろな体の動きに興味をもち喜んで取り組む。**<br>・友達とのつながりを感じながらいろいろな遊びを楽しむ。<br>・幼稚園生活の仕方がわかり自分たちで生活をつくっていこうとする。 | **・いろいろな材料・用具や遊具に関心をもち，自分のイメージをわかして遊ぶ。**<br>・自分の思いを伝えようとしたり相手の思いを感じ取ったりしながら遊びを楽しむ。 | |

before

| | | | Ⅳ期 | Ⅴ期 | Ⅵ期 |
|---|---|---|---|---|---|
| 指導する内容 | 人 | 先生 | | ・先生とやりとりする中で遊びをつくっていく楽しさを味わう。<br>・先生や友達に自分の思っていることを伝えようとする。 | |
| | | クラスの友達 | | ・気の合う友達と遊ぶ中で、自分のしたいことと友達のしたいことに違いを感じながらも一緒に遊ぼうとする。 | |
| | | 関わりをもつ人たち | | ・思ったことや感じたことを自分なりの方法で素直に表現し、表現の楽しさを味わう。<br>・異年齢保育の中で様々な不安や葛藤を乗り越えやり遂げられた自分を感じる。 | |
| | 生活と文化 | | | ・幼稚園生活のリズムを感じて自分からやろうとする。<br>・いろいろな活動をみんなで一緒にすることの楽しさを味わう。 | |
| | もの | | | ・自分なりのイメージをわかして遊ぶ。<br>・自分なりに試したり確かめたりして遊ぶ。<br>・いろいろな体の動きに興味をもち、その楽しさを味わう。<br>・全身を使って遊ぶことを楽しむ。 | |

この時期にふさわしい教材（もの）の視点で教材研究し，保育を実践する

→この時期にふさわしいと思われる教材

何度も繰り返し試せるもの，少し難しい体の動きができそうな遊具

積み木，段ボール，砂粘土，自然物，大型発泡スチロール，　など

雲梯等を利用した手作り遊具，大型ブロック　等　（※一部抜粋）

◇教材（もの）との関わりを視点に実際の子どもの具体的な姿を捉え直す◇

- 自分なりに自然物を使ってごちそうや飾りを作ることを楽しんでいる。
- 友達の遊び，先生のしている遊び，新しい遊びなどに目が向き，いろいろな遊びに積極的に入ろうとする。
- いろいろな遊具・素材にも目が向き，やってみたいという気持ちが芽生えている。
- 少し難しい遊具や高いところにも挑戦してみようとしている。

◇この時期の子どもの経験で大切にしたいことを再考する◇

- 自然物や素材・用具に関わる経験からイメージがわくことが多いので，様々な素材の経験ができるようにしたい。
- 自分なりに何度も繰り返し遊びに取り組んでほしい。
- 少し難しい遊具に自分なりにやってみようという意欲をもって繰り返し挑戦し，様々な身体の動きに興味をもって取り組んでほしい。

◇これらを基に教育課程を加筆・修正する◇

（加筆・修正）

after

| | | |
|---|---|---|
| もの | | ・自然物やいろいろな素材・用具に関わる中で自分なりのイメージをわかして遊ぶ。<br>・いろいろな材料や用具と関わり自分なりに試したり確かめたりして遊ぶ。<br>・いろいろな体の動きに興味をもって取り組んだり試したりする楽しさを味わう。<br>・全身を使って遊びながら挑戦する楽しみを味わう。 |

# 「人との関わり」の広がりを目指して
## ～学校評価に基づいて～

**那須烏山市立つくし幼稚園**

### 1　教育課程の編成・改善の方向性

前年度の学校評価から、「保護者・地域との連携」に課題があり、保護者からは「地域との連携が弱い」という指摘があった。また、これまでの様々な機関との連携で、いろいろな人と関わりながら保育を進めてきたが、教職員からも触れ合うことのみが目的であったことが反省として挙げられた。

幼児は、身近な人との温かな関わりを通して、人への信頼感をもち、自己を発揮していくことができる。社会生活をしていく上でも、自分の考えを伝え、相手の考えを受け止め、受け入れられるようになるなど、人と関わる力を身に付けていくことは重要なことである。

そこで、改善の方向性を、保護者や地域の方々など、様々な人と関わることで幼児に何が育つのか、また、何を育てていくのかという視点に絞り、今回の改訂で示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の 10 項目との関連を明らかにしながら教育課程の改善を図った。

### 2　教育課程の編成・改善の手順

| 日　付 | 内　容・方　法 |
|---|---|
| H29.6.19<br>～H29.6.30 | （１）園内研修で教育課程改善の内容と幼稚園教育要領の改訂の趣旨について理解する。<br>（２）園内研修で、本園の実態について話し合う。<br>昨年度の学校評価の結果を基に、教育課程改善の視点を探る。 |
| H29.7.13 | （３）アンケートを実施し、保護者の意見を聞く。<br>※アンケートの内容<br>・地域に開かれた幼稚園として行った行事について<br>・保護者、地域の方が参加しやすい園とは<br>・家庭との連携について園に望むこと　　など |
| H29.8.7 | （４）園内研修でアンケートについて意見交換をする。<br>・３年間を通して地域の連携から育っている姿を確認する。<br>・２、３年保育４歳児教育課程を作成し協議する。<br>・２、３年保育５歳児教育課程を作成し協議する。<br>・幼児の姿から、地域との交流活動の内容や方法を検討する。 |
| H29.9.14 | （５）視点を「人との関わり」に決定する。 |
| H29.9.26 | （６）園内研修で「人との関わり」の視点から、教育課程にある幼児の姿や経験を一つ一つ見直し、ねらい、内容、時期についての進め方の共通理解を図る。<br>基礎データの作り方を確認する。<br>（７）各学年で基礎データを作成する。教務主任が３学年の調整をする。 |
| H29.10.19 | （８）幼児教育センターに講師を依頼し、教育課程編成の進め方を確認する。 |
| H29.10.23 | （９）園内研修で基礎データを基に教育課程の編成を行う。 |
| H29.11.10 | (10) 各学年で「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の観点から、指導内容や行事の在り方について見直す。 |
| H30.1～ | (11) 園長のリーダーシップの下、教育課程に基づく指導計画の改善を図る。 |

## 3　教育課程の編成・改善の実際

※　表中の(1)～(10)は、幼稚園教育要領に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の番号である。

【追加内容】
・お互いのよさを認め合い、自信をもって、活動に取り組む。
《理　由》
・教職員にほめられたり認められたりしていくうちに自信をもって行動できるようになってくる。
・自分が認められていくと、友達のよさにも気付けるようになってくる。　(2)　(4)　(6)

【追加内容】
・１年生になることを期待しながら、はりきって生活する。
《理　由》
・入学準備に向けての行事等が増える中、幼児は小学校のことを多く話題に出すなど、入学に期待をもって過ごしている。　(1)　(2)　(5)　(9)

**教育課程表　３年保育５歳児**

**発達の姿**

| ６期　友達と一緒に遊びの経験を広げている | ７期　友達とのつながりが深まってくる | ８期　一人一人の取組が充実してくる |
|---|---|---|
| 大きくなったことを自覚し、環境へ積極的に働きかけたり、活動範囲を広げたりしている。 | 自分の思いを伝えたり相手の思いに気付いたりして、友達と一緒に一つの目的に向かって、活動することを楽しんでいる。 | 一つのことに、じっくり取り組む姿が見られてくる。友達の考えも取り入れながら自分なりの目的に向かって遊びを進めている。 |

**ねらい**
・友達と思いや考えを伝え合いながら、遊びを楽しむ。
・身近な環境に積極的に働きかけ、考えたり試したりして遊ぶ。
・いろいろな体の動きに興味をもち、その子なりに挑戦しようとする。
・感じたことや考えたことを工夫しながら、表現しようとする。
・身近な人に思いやりの気持ちをもって関わろうとする。
・共通の目的に向かって、友達と考えを出し合いながら活動を進める。
・いろいろなことを工夫しながら、一つのことにじっくり取り組む。
・遊びや生活の中で出会う様々な問題について、先生や友達と一緒に考え、解決しようとする。

〈６期　指導する内容〉
・自分を取り巻く様々な環境に働きかけながら、友達と一緒に遊びを楽しむ。
・身近な環境との関わりの中で、気付いたり、発見したりしたことを、友達と伝え合ったり、共感し合ったりする。
・身近な動植物に親しみ、いたわり、関心をもったりする。
・友達とのつながりを感じながら一緒に活動する楽しさを味わう。
・園生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えていこうとする。

〈７期　指導する内容〉
・いろいろな材料や用具を工夫して使いながら、自分のイメージを表現する楽しさを味わう。
・身近な環境との関わりで得たものを、生活に取り入れながら、自分たちの生活を豊かにしていこうとする。
・目的に向かって、自分なりに工夫したり、いろいろな体の動きに挑戦したりして、遊びを楽しむ。
・自分の思いを伝えたり、友達の思いに気付いたりして、遊びを進めていく。
・危険な場や遊び方が分かり、安全に気を付けて行動しようとする。

〈８期　指導する内容〉
・自分なりの見通しをもって活動に取り組み、最後までやり通そうとする。
・友達と共通の目的に向かって活動することの楽しさを味わう。
・自分の考えを相手に伝えたり、友達のよさを認めたり、その考えを取り入れたりしながら遊びを進めていく。
・自分の役割を意識し、グループの一員、クラスの一員として活動に取り組む。
・文字や数量を取り入れながら、遊びや生活を豊かにしていく。

**学年のねらい**
○　目的に向かって、いろいろ工夫しながら活動に取り組む。
○　友達と思いを伝え合いながら、一緒に活動する。

【追加内容】
・年長組になったことに喜びを感じ、小さい組のお世話をしたり、一緒に遊んだりすることで、人の役に立つ喜びを味わう。
《理　由》
・年少、年中組の面倒を見たり、一緒に遊んだりしながら関わっている。
・教職員に認められ、自信をもったり人の役に立つことの喜びを味わったりすることで　思いやりの行動が出てきている。
(4)　(5)

【追加内容】
・周囲の人たちと関わる中で、相手の立場に立って思いやりの気持ちをもったり、自分の気持ちを調整して遊んだりする。
《理　由》
・高齢者や小さい子との関わりを通して、優しくしよう、親切にしようという気持ちがもてるようになってきている。
・自分の思いが通らず、葛藤やつまずきが見られるが、自分の思いだけではなく、友達の思いや意見を聞き入れたり、友達と話合いをしたりしながら、自分の気持ちを調整して友達と折り合いをつける方法を学んでいる。
(2)　(3)　(4)　(5)　(9)　(10)

【追加内容】
・いろいろな地域の人と触れ合い、一緒に楽しく活動しながら、親しみをもったり、思いやりの気持ちをもったりする。
・いろいろな場面で、友達とルールを作ったり、作り直したりして、きまりを守って活動する。
《理　由》
・いろいろな人との関わりを通して、自分の生活とのつながりや仕組み、役割が分かってきたり、人と関わることの楽しさやおもしろさ、情報が入ってくることが分かってきたりしている。
・約束やルールを守ることで気持ちよく生活ができたり、遊びが楽しくなっていくことが分かってきたりしている。友達同士で、きまり、約束、ルールを作ったり、作り直したりしていく姿等、規範意識の芽生えが見られる。　(3)　(4)　(5)　(9)

**≪参考≫「人との関わり」基礎データ**

| 行事等 | 時期 | 人　材 | 園児との関わり | 学年 | ね　ら　い | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 高齢者との触れ合い | ９月上旬 | しゃぼんだまグループ | ・一緒に遊ぶ<br>・昔の遊びを教えてくれる | ３歳児 | ・しゃぼんだまグループの方と一緒に遊ぶことを楽しむ。 | (5) |
| | | | | ４歳児 | ・一緒に遊んだり、伝承遊びを教えてもらったりしながら、高齢者の方に親しみをもつ。 | (5) (9) (10) |
| | | | | ５歳児 | ・地域の方といろいろな遊びを通して交流をもったり、感謝の気持ちをもったりする。 | (5) (9) (10) |

# 自ら考えて行動する子を目指して
## ～「思考力、判断力、表現力等の基礎」を視点に～

足利短期大学附属幼稚園

### 1　教育課程の編成・改善の方向性

本園の幼児は、友達や教職員との関わりの中で、主体的・能動的に行動するというよりも、どちらかというと受動的に行動する姿が多く見られる。

本来、幼児は、主体的に環境に関わったり、友達と遊びの中で工夫したり試行錯誤したりすることで、様々なことを身に付けていく。そのためには、幼児の発達に応じた適当な環境構成や教職員の関わりを見直す必要があると考える。

今回の幼稚園教育要領の改訂で「幼児期に育みたい資質・能力」が「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱として明確に整理され、それらを一体的に育むということが大切だと言われているが、本園では、自ら考えて行動する幼児の育成を目指して、「思考力、判断力、表現力等の基礎」を中心の視点として、教育課程の見直しを図った。

### 2　教育課程の編成・改善の手順

| 日　付 | 内　容・方　法 |
|---|---|
| H29.7.25 | （1）　園内研修で幼稚園教育要領を読み、改訂のポイントを伝え、共通理解を図る。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について意見交換をする。 |
| H29.8.30 | （2）　日々の保育の事例を持ち寄り、幼児の実態について話し合いながら、教育課程の見直しの視点を明らかにする。 |
| 9月中旬 | （3）教育課程の見直しの視点から学年ごとに話合いを重ね、園内研修にて共通理解を図る。 |
| 10月上旬 | （4）学年ごとに見直した教育課程を持ち寄り、発達が見通されているか等を意見交換しながら検討する。 |
| H29.12.26 | （5）見直した教育課程を基に、実際に幼児の発達に応じた活動や遊びが行われているかを検討する。 |
| H30.<br>1月下旬 | （6）再度、学年ごとに見直した教育課程を持ち寄って、「思考力、判断力、表現力等の基礎」を視点に、教育課程を見直す。 |
| 2月中旬 | （7）教育課程に反映させ作成する。 |
| 3月 | （8）作成した教育課程について、一人一人の教職員から意見を聞き、園全体で調節し、共通理解を図る。 |

## 3　教育課程の編成・改善の実際

ここでは、主に、５歳児の「指導の内容」の改訂について示している。

**before**

| | Ⅳ期（11～12 月） | Ⅴ期（１～3 月） |
|---|---|---|
| 発達の姿 | | |
| ねらい | | |
| 指導の内容 | ・クラスやグループの中で自分の力を発揮し、進んで行動できるようにしていく。<br>・友達と話し合ったり、考えを出し合ったりしながら遊びや活動を進めていく。<br>・友達の気持ちを理解し、共感し合っていく。<br>・身近な自然の美しさや環境の変化に興味をもてるようにしていく。 | ・園生活に見通しをもち、時間を意識して行動する。<br>・自分の成長を感じ、入学への喜びや期待を膨らませ、意欲的に行動する。<br>・身近な動植物の命に気付き、大切にする気持ちをもって関わる。<br>・生活を共にしてきた友達や身近な人々に感謝の気持ちをもつ。 |
| | ・遊びの中で感じたことや発見したこと、感動したことなど言葉や身体を使って表現する楽しさを味わっていく。 | |

**after**

| | Ⅳ期（11～12 月） | Ⅴ期（１～3 月） |
|---|---|---|
| 発達の姿 | | |
| ねらい | | |
| 指導の内容 | ・クラスやグル[illegible]の中で自分の力を発揮し、目的をもって遊びや生活を進める。<br>・友達と話し合ったり考えを出し合ったりし[illegible]遊びや活動を進めていく。<br>・友達の気持ちを理解し共感し合ったり、振り返ったりして考えながら行動する。<br>・身近な自然の美しさや環境の変化に興味をもち、遊びに取り入れて楽しんでいく。 | ・園生活に見通しをもち、時間を意識して<br>・身近な動植物の命に気付き、大切にする気持ちをもって関わる。<br>・生活を共にしてきた友達や身近な人々に感謝の気持ちをもち、自分の言葉で伝えようとする。 |
| | ・遊びや生活の中でじっくりと考え、工夫したり試したり、表現したりする楽しさを味わい、自己発揮しながら過ごす。 | |

判断力の面から、進んで行動できるようになるためにどうしたらよいか考え、目的をもつことを追加した。

思考力の芽生えを考え、共感し合うだけでなく、振り返ることを追加した。

今までも自然物を使って遊んでいたが、指導の内容の中に入っていなかったため追加した。

感謝の気持ちをきちんと伝えられるよう追加した。

表現力の面から、一人一人が自己発揮できるように、指導の内容を検討し追加した。

園内研修の様子

# 満３歳児の生活
## ～「養護的な関わり」を意識して～

**第二ひかり幼稚園**

### １　教育課程の編成・改善の方向性

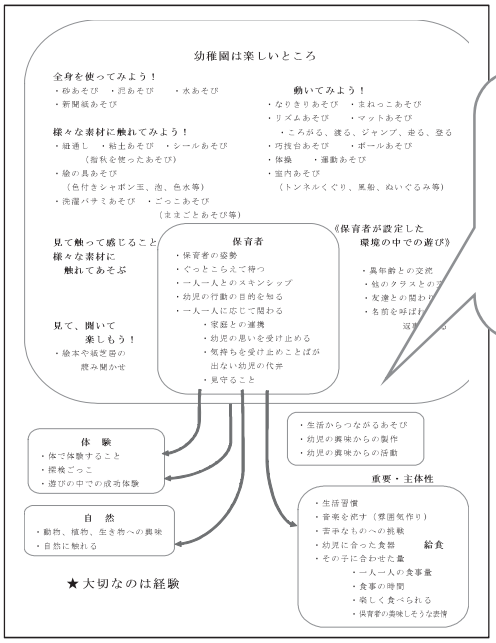
これまで満３歳児においては、３歳児の教育課程を基に保育を展開してきた。しかし、近年における幼児を取り巻く環境から、個々の発達に必要な経験を考えたとき、幼児期前半の幼児の成長には環境を含めた、より養護的な配慮が必要ではないかと思われる。

満３歳児には、自立に向かいながら主体的な生活ができるための基盤を育てたい。そのためには、周囲との信頼関係を確かなものにし、大人への依存を基盤に安心感のある生活の保障が重要である。

そこで、乳児期からの連続性をもった個々の発達を探り、この時期にふさわしい経験や無理のない生活展開を丁寧に考え、満３歳児の教育課程を編成した。また、家庭との接続に十分に配慮し、密な連携を考慮した上で、親子双方の安定につながる柔軟な計画にすることも意識した。

### ２　教育課程の編成・改善の手順

| 日　付 | 内　容・方　法 |
|---|---|
| ６月下旬<br><br>７月中旬<br>H29. 7.26 | （１）教育目標に対する保育内容の見直しを行うとともに改善の視点を探る。<br>（２）改善の視点を「満３歳児の生活」とし、全職員で共通理解を図り、事例から幼児の実態を探っていく。<br>（３）園内研修を行う（ひかり幼稚園・第二ひかり幼稚園合同）。<br>・学年会で見直した１学期指導計画を持ち寄り、調整する。<br>・１学期の生活を振り返り、大切にしたい幼児の主体的な活動や経験を探る。<br>・全体で発表し合い、共通理解を図り、教育課程に反映させていく。 |




＜満３歳児グループ協議から＞

～協議から見えてきたこと～

・幼児が自分からやってみよう！と思うことが大切で、自分から…という姿がないと楽しめないことに気付いた。

・何でも体験してみることが大切だと思うが、どのタイミングで何を体験させたいのかが大事なことだと思う。

・一人一人への丁寧な関わりが大切だと改めて気付いた。　等

※　協議の内容をまとめてみると、全体が見えてきて、全てつながっていることに気付いた。満３歳児に大切なことは、幼児自ら、いろいろなことを経験し、やりたい気持ちや意欲をもつことであると考える。また、幼児の興味や関心、思いをくみ取り保育や生活につなげていくことが大切ではないかと考える。

（参考資料）

| | |
|---|---|
| ８月下旬<br><br>H29. 9.12<br>H29. 9.13<br>９月中旬 | （４）指導計画の見直しと園内研修での気付き（参考資料）を基に、ねらいと内容を検討する。<br>（５）満３歳児クラスの公開保育を行い、幼児の実態を確認し、見通した姿との違いはないか確認する。<br>（６）指導計画や事例等も参考にして、ねらいと内容の検討を重ね、満３歳児の教育課程の編成を行う。 |

## 3　教育課程の編成・改善の実際

### 事例１

＜幼児の姿＞シューズの履き替えを嫌がる、かかとを踏む、靴箱に入れない等の姿がある。その際、履き替えは個々の状態を見て、慣れてきたころに必要性を伝え、関心をもたせていった。

＜気付き＞家庭生活から幼稚園生活へと無理なく適応させていくためには、教職員のもとで安心して過ごせることを第一に考えることが大切だと思う。その中で、自分でやってみたいという思いをもたせていきたいと考えるが、一人一人の育ちの姿をよく見て、その子のタイミングを大切にすることが重要だと思う。

### 公開保育での幼児の姿

・好きな遊びがあり、安心して遊んでいる。また、教職員や友達との関わりが楽しめつつある。
・片付け等、一緒にやることが楽しくなってきたところだが、一方でもっと遊びたいと言い張る幼児もいる。
・体操やリズム等で動くことが楽しく、好きなことには積極的に参加する。　（抜粋）

※見通した姿と概ね同じと見られ、これらの姿はⅡ期の姿につながっていくと思われる。

**満３歳児　教育課程**　【満３歳の誕生日からとする】

**学年のねらい**　・園生活の流れを知り幼稚園の生活に親しむ　・身の回りのことが自分でできるようになる

| 期 | Ⅰ　期 | Ⅱ　期 |
|---|---|---|
| 発達の姿 | 初めての園生活に不安や戸惑いがあり、泣いて登園する子の中にはその姿を見て不安になる子もいる。また、新しい環境に好奇心いっぱいの子もいる。<br>いろいろな自然物（虫・雨・植物等）に興味・関心をもつ。<br>自己主張が強くなり、何でも自分でやりたがったりできないと、かんしゃくを起こしたりする姿も見られる。<br>いろいろな食材に出会う。（好き嫌いや食べず嫌いがはっきりしてくる）<br>園での生活に慣れ、好きな遊びを見つけて遊んだり先生や友達との関わりを楽しむ姿が見られる。 | 自分の意思や感情を言葉や動作で表現し伝えようとする。一方で友達とのぶつかり合いも多くなる。<br>友達に関心を示し始め、同じ遊びをするようになる。<br>自分でできることが増えていき、できる喜びを感じる。<br>いろいろな言葉を知り、語彙が増え豊かになっていく。<br>友達や先生の真似をしたり、一緒に行うことを楽しんだりする。 |
| ねらいと内容 | ○新しい環境に慣れ、安心して過ごす。<br>○先生や友達と遊びを通して楽しい気持ちを味わう。<br>○先生や友達と一緒に給食を食べる楽しさを味わう。<br>○いろいろな友達と関わることを楽しむ。<br>・先生と話したり一緒にいたりして不安な気持ちや要素をくみ取ってもらい安心する。<br>・先生の声掛けやその子のタイミングでトイレに行き排泄をしてみる。<br>・先生の声掛けに促されて自分の持ち物の始末を行う。<br>・好きな歌やリズムにのって伸び伸びと体を動かして楽しむ。 | ○簡単な身の回りのことに興味をもち、自分でやってみようとする。<br>○園生活の中で様々な言語表現を経験し、自分なりに表現できる基礎を育てる。<br>○全身を十分に動かして遊び、満足感を味わう。<br>・先生や友達と模倣遊びやごっこ遊びを通して言葉のやりとりを楽しむ。<br>・好きな遊具遊びや運動を通して体を動かして遊ぶことを楽しむ。 |

### 事例２

＜幼児の姿＞着替えは、個別のロッカーにクリアケースを設置し、必要に応じて幼児の前で出し入れして着替えていった。慣れてくると自分で出したり、片付けたりする姿が見られるようになった。

＜気付き＞見ながらやり方を覚え、関心が出てきたと考える。やってみたいと思えるような声掛けや、楽しいと感じる声掛けも大切ではないかと思う。

### 事例３

＜幼児の姿＞保育室にあるものを利用してのごっこ遊びや、いろいろな物に見立てての遊びが楽しい。また、教職員とのやりとりの中で声を出すことが楽しくなってきた。

＜気付き＞自分の生活体験から遊びが広がっていくことが分かった。また、大人の様子をよく観察しており真似を楽しんでいることも分かった。遊びの中で声を出す楽しさや友達と遊ぶ面白さを感じられる工夫も大切だと思う。

※日々の保育から事例を収集し幼児の実態を探っていった。また、〰の部分はねらいや内容に反映させた。

# 地域との連携
## ～全体的な計画を意識して～

**栃木市認定西方なかよしこども園**

### １　教育課程の編成･改善の方向性

今回の教育・保育要領の改訂において示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の中に「社会生活との関わり」が挙げられている。本園においても、地域との交流、幼小連携として、いくつかの行事を通して、地域の人と関わる機会を設けてきた。しかし、その一つ一つの行事が慣例的に行われていることが現状である。

これらの行事について、園児の発達に応じて必要な経験を洗い出し、教育課程に記されているねらいや内容との整合性を図っていくことで、園児にとって交流や連携が豊かな経験になるようにしていきたい。

そこで、全体的な計画を意識して、交流などをしている際の園児の姿から園児に経験させたい内容や方法を明確にし、各々の計画を再度見直しながら教育課程との関連を図っていきたいと考えた。

### ２　教育課程の編成・改善の手順

| 日　付 | 内　容・方　法 |
|---|---|
| H29．8．10 | （１）園内研修を行い、幼稚園教育要領改訂のポイントについて共通理解を図る。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点に、園の実態、子どもの姿について意見を出し合い、教育課程を見直す視点を明らかにする。 |
| ７月下旬 | （２）「社会生活との関わり」という視点から、全体的な計画を意識して教育課程の改善を行う。 |
| | （３）どのような行事で地域の人と触れ合い、関わっているかを洗い出す。 |
| ８月 | （４）学年会議を行い、行事ごとに３歳児、４歳児、５歳児それぞれの園児の姿を捉える。 |
| H29．9．5 | （５）園内研修を行い、持ち寄った「園児の姿」について意見交換、調整を行う。 |
| H29．9．12 | （６）園内研修を行い、（４）でまとめた「園児の姿」を基に、行事ごとに「経験させたい内容」を洗い出し、「ねらい」を捉えていく。 |
| | （７）取り上げた行事を「地域の人と関わっている行事」と「幼小連携として小学生と関わっている行事」の二つに分ける。 |
| １０月上旬 | （８）ねらいと経験させたい内容を基に、「地域交流計画」、「幼小連携計画」を作成する。 |
| １１月上旬 | （９）園内研修を行い、「地域交流計画」、「幼小連携計画」と「教育課程」を照らし合わせ、ねらいや内容、時期等の整合性を図っていく。 |

## 3　教育課程の編成・改善の実際

### 【地域交流計画】

新しく加えたもの　　加えた理由や背景

| 時期 | | 5月 | 8月 | 12月 |
|---|---|---|---|---|
| 行事名 | | 西方中学校マイチャレンジ体験 | [illegible] | 高齢者との交流会 |
| 対象園児 | | 3.4.5歳児 | [illegible] | 3.4.5歳児 |
| 5歳児 | 子どもの姿 | ・積極的に話しかけたり、遊びに誘ったりしながら、一緒に遊びを楽しんでいる。<br>・中学生と一緒に過ごせることを喜んでいる。 | ・い[illegible]緊張[illegible]大きな拍手をもらい、笑顔がこぼれていた。 | [illegible]が作ったプレゼントを渡し[illegible]<br>・照[illegible]って[illegible] |
| | ねらい | 中学生との遊びを自分たちの遊びに取り入れる。 | 友達と一緒に地域の人と自ら関わり交流を深める。 | ~~高齢者との交流を楽しむ。~~ |
| | 内容 | ・中学生との遊びに興味をもち、憧れや親しみの気持ちをもって自ら関わっていく。<br>・目的に向かって楽しく活動するためにきまりやルールを守ることが大切であると実感する。 | ・小中学生のボランティアの方々と一緒に楽しく遊ぶ。<br>・友達と一緒にゲームやオバケ屋敷に参加し、感じたことを伝え合ったり、共感し合ったりする。 | ・高齢者へのプレゼント作りを通して、自分なりの思いを伝える。<br>・立場をわきまえ、あいさつをしたり、高齢者に優しくしたりする。 |

今までの高齢者との関わりから、優しく接しようと、いたわりの気持ちをもつようになる。

高齢者との関わり方を自分なりに考え行動する。

計画と教育課程の整合性を図る。

### 【教育課程】

今までの経験から、何事にも興味を示し関わることで、自分なりに楽しもうとする。

| | 期 | Ⅰ | | Ⅲ |
|---|---|---|---|---|
| 5歳児 | 子どもの姿 | 進んで環境に働きかけていく[illegible] | [illegible]描 | 共通の目的の実現に向けて考えを出し合う |
| | ねらい | 進んで友[illegible]って遊ぶ | 友達と共通の目的を見いだしながら遊びを進める | 共通の目的に向かって友達と協力しながら遊びを進めていく |
| | 内容 | 1．様々な環境に自ら関わり、自分なりに遊びを進めていく<br>2．自分の思いを相手に伝えたり、共感し合ったりする | 1．友達の考えを意識したり、自分なりに対応を考えたりする<br>2．お互いに考えを出し合いながら自分達で遊びを進めていこうとする | 1．自分なりの見通しをもって、活動に取り組む<br>2．お互いに考えを伝え合ったり友達のよさを認めたりしながら、仲間やクラス全体での活動に取り組む<br>3．就学に向けて期待感をもち、意欲的に生活する。 |

興味をもって

3．一人一人が自分の役割を果たし、きまりを守ることが大切であることを実感していく。

3．友達の気持ちを理解した上で、共感や思いやりのある行動をしようとする。

きまりを守ると友達と楽しく過ごせることに気付き、それを守ろうとして行動するようになる。

自分の思いが通らず、葛藤やつまずきを経験することで、友達の思いや意見を理解しようとする。

# 小学校教育との接続
## ～「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識して～

**認定こども園あかみ幼稚園**

1　教育課程の編成・改善の方向性

我が園は、小学校との接続をより円滑に進めるために、近隣の小学校との幼小連携プロジェクト研究会を行っている。そこでは、小学校との意見交換や保育・授業参観を行い、アプローチ・スタートカリキュラムを作成し、相互理解を深めている。

小学校との接続を円滑にするために、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識しながら教育課程を見直すことで、子どもの育ちがより明確にされ、具体的援助につながっていくと考えた。

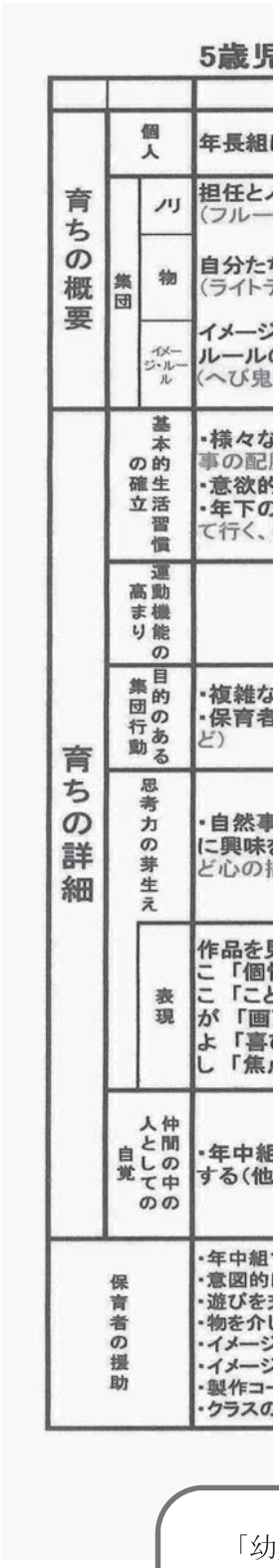
今回の改善では、０歳児から５歳児までの保育・教育課程の枠組みをトータルに考え、０歳児を「三つの視点」、１～５歳児を「５領域」で分類し、その姿が果たして様々な子どもの育ちを十分に捉えているかを、改めて考えることにした。また、５歳児では、それぞれの育ちゆく姿に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を明記し、小学校との接続を意識した教育課程にする。

2　教育課程の編成・改善の手順

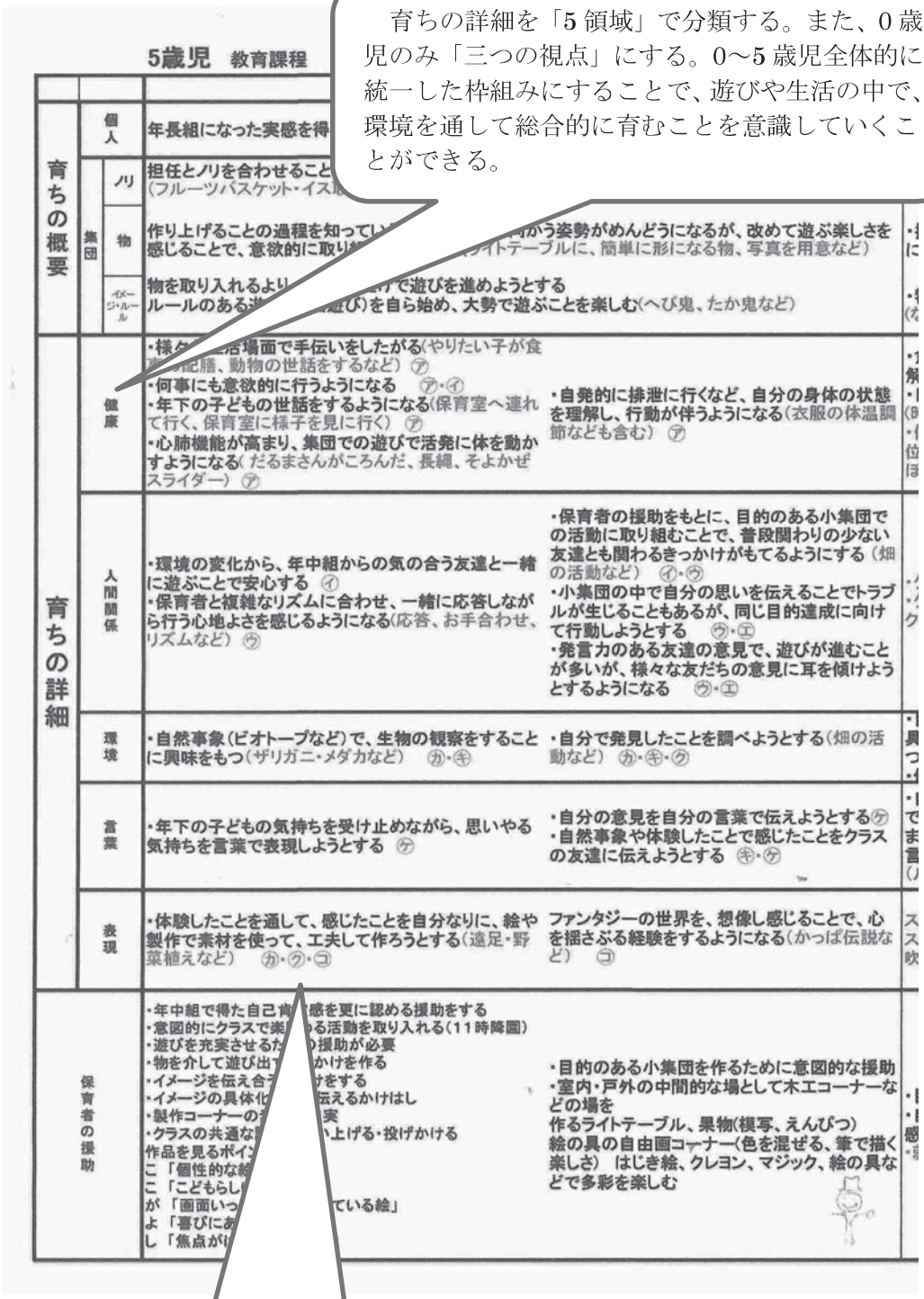
| 日　付 | 内　容・方　法 |
|---|---|
| H29. 3. 27 | （１）園内研修で「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について実際の遊びの写真・動画（普段の遊びの様子）をみて、その遊びで１０の姿の何が育つのかをグループに分かれ、意見を出し合い、共通理解を図る。 |
| ６月中旬 | （２）理事長・園長・副園長で協議をし、教育課程を見直す視点を明らかにする。 |
| ７月上旬 | （３）教育課程の育ちの詳細の枠組みを「資質・能力」の三つの柱で分けてみる。 |
| H29. 7. 25 | （４）園内研修で、「教育要領の改訂に基づく考え方（資質・能力の明確化を含む）」を理事長より講話をしてもらい、その後、教育課程の見直しを行う。<br>学年ごとに幼児の発達を見通し、育ちの姿が「資質・能力」の枠組みに分けられているか、その時期でふさわしいのかなど、日々の保育の事例をもとに、子どもの姿と照らし合わせ、検討する。 |
| H29. 8～<br>H29. 11. 17 | （５）引き続き、主任を中心に教育課程の見直しを定期的に繰り返す（課題も出てくる）。<br>（６）幼小連携プロジェクト研究会にて、作成しているカリキュラムに「幼児期に終わりまでに育ってほしい姿」を追記し、幼児期と児童期に大事にしたい姿を共通理解する。そのことを、園の教育課程にも反映させる（「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の記号を、５歳児教育課程のみ、育ちの詳細に付け加える）。 |
| H29. 12. 16 | （７）０～２歳児の２学期振返りの園内研修で、以前から話題にしていた保育・教育課程の見直しを本格的に取り組むことが決定となる。 |
| 12 月中旬 | （８）理事長・園長・施設長などが集まり、保育・教育課程の枠組みの再検討を図る。３～５歳児の枠組みを「資質・能力」の三つの柱で分けたことでの表記の難しさの課題と、０歳児からトータルでの改善を検討事項とし、改めて見直す視点を話し合う。その結果、０歳児を「三つの視点」、１～５歳児を「５領域」で分類する方向性を出す。 |
| １月下旬 | （９）学年ごとに見直した教育課程を持ち寄り、発達を見通しながら、全体で調整する。 |
| ２月下旬 | (10) 見直した教育課程を基に、月案・週案の見直しも図る。 |

## 3　教育課程の編成・改善の実際

Before



After



育ちの詳細を「5領域」で分類する。また、0歳児のみ「三つの視点」にする。0～5歳児全体的に統一した枠組みにすることで、遊びや生活の中で、環境を通して総合的に育むことを意識していくことができる。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を記号（㋐～㋙）で記入することで、幼児期から児童期への発達や学びの連続性を意識していくことができる。

例えば、㋐「健康な心と体」

# 平成２９年度幼児教育調査研究委員

【　委　員　】　（敬称略・五十音順）

| | |
|---|---|
| 五十嵐　市郎 | 宇都宮大学教育学部附属幼稚園副園長 |
| 石川　悦代 | 足利短期大学附属幼稚園教諭 |
| 長島　弥生 | 認定こども園あかみ幼稚園副園長 |
| 野口　裕未 | 栃木市認定西方なかよしこども園保育教諭 |
| 深澤　桃子 | 那須烏山市立つくし幼稚園教諭 |
| 渡邉　きよみ | 第二ひかり幼稚園教諭 |

【　事務局　】

| | |
|---|---|
| 根岸　美登里 | 栃木県教育委員会事務局学校教育課副主幹 |
| 森田　浩子 | 栃木県総合教育センター幼児教育部長 |
| 吉河　昭光 | 栃木県総合教育センター幼児教育部長補佐 |
| 髙木　恵美 | 栃木県総合教育センター幼児教育部副主幹 |
| 前原　由紀 | 栃木県総合教育センター幼児教育部指導主事 |
| 黒川　貴広 | 栃木県総合教育センター幼児教育部指導主事 |
| 神長　美津子 | 栃木県総合教育センター幼児教育部顧問 |
| 吉田　カヨ | 栃木県総合教育センター幼児教育部幼児教育専門員 |
| 栗田　英子 | 栃木県総合教育センター幼児教育部幼児教育専門員 |

※役職は平成２９年度のもの

幼稚園教育課程編成の手引

平成３０年３月発行
栃木県総合教育センター幼児教育部
栃木県幼児教育センター
〒320-0002　栃木県宇都宮市瓦谷町 1070
TEL 028-665-7215　　FAX 028-665-7216
URL http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/youji